

伴う炎症性肉芽組織の形成あり，保存治療にて治癒せず，受傷後4か月で当院初診となった。創部の培養は陰性，抗生物質投与でも軽快せず，膿瘍部切除施行した。病巣の範囲は筋膜上までで，筋膜上には僅かに砂利を認めた。病理検査では切除組織に好中球浸潤を認め，感染症と判断されたが各種培養は陰性であった。その後一旦は創治癒したかに見えたが，再び瘻孔を伴う炎症性肉芽が再発した。初回手術から2か月後，再度膿瘍部切除施行した。前回と同様に病変は筋膜上までであり，さらに広範囲に切除した。しかしその後植皮部より潰瘍形成あり，再発を認めた。一般細菌培養はやはり陰性で，真菌，嫌気性菌，好気性菌，偏性嫌気性菌，抗酸菌培養もすべて陰性。その後感染拡大し再入院となった。この時の一般細菌培養にて，培養開始1週間以降より菌の検出を認め，同定培養して初めて *Mycobacterium Fortuitum* が検出された。LVFK にのみ感受性を認めたため，1日500mg/日で内服開始した。内服開始から6カ月の現在，ほぼ創治癒得られている。【考察】非結核性抗酸菌の診断に難渋した一例を経験した。本症例のように慢性的な経過をとり，保存治療に抵抗を示す場合，非結核性抗酸菌症も考慮に入れる必要がある。本菌は通常より長期に培養を施行することが必要で，臨床所見からも本疾患を念頭に置かないとその同定は難しいと考えられた。

8. 脛骨骨折術後の感染性偽関節に対し抗生剤入りセメントロッドを用いた2例

小林 裕樹，増田 士郎，鈴木 隆之
佐藤 直樹，小林 史明，田中 宏志

(伊勢崎市民病院 整形外科)

感染性偽関節は治療に難渋することが多い。我々は脛骨骨折術後の感染性偽関節に対し，抗生剤入りセメントロッドを用いた治療を行った2症例を経験したので報告をする。【症例1】65歳男性，転落による右下腿両骨骨折に対し脛骨髄内釘による整復固定術が行われていた。術後4週より創部の感染兆候があり創培養でMRSAが検出されたため，内固定材を除去し抗生剤入りセメントロッドを脛骨髄内に挿入した。感染の沈静が確認されるまで計3回ロッドを交換した後，骨移植術と髄内釘固定術を行った。【症例2】76歳男性，交通事故による右下腿両骨開放性骨折に対しプレート固定が行われていた。術後8週で創部の感染兆候があったため，症例1と同様の治療を行った。術後1年で両症例とも感染の再燃を認めていない。

抗生剤入りセメントロッドを髄内釘として使用することで，本手術までの待機期間中の創管理が簡便となり患者の体動制限も少なくなる。この方法は抗生剤入りセメントスペーサーの一応用法として有用であると考えられ

た。

9. 透析患者のシャント側に生じた橈骨遠位端骨折の2例

大谷 昇，浅見 和義，内田 徹
中島 飛志，反町 泰紀，対比地加奈子
品川 知司 (前橋赤十字病院 整形外科)

橈骨遠位端骨折はギプス固定による保存療法や掌側ロッキングプレートによる手術療法が行われており良好な治療成績が得られているが，透析患者のシャント側においてギプス固定や手術加療を行った場合，内シャントを閉塞してしまう可能性がある。

シャント側に生じた橈骨遠位端骨折に対して創外固定器を用いた治療を行い内シャントを閉塞させることなく良好な結果を得ることができた。

10. ヘパリンの抗凝固作用に抵抗性を示した前十字靭帯再建術の1例

山口 蔵人，上村 民子，畑山 和久
中川 智之，木村 雅史

(善衆会病院 整形外科)

症例は49歳女性，自宅で滑って転倒し受傷。左膝痛と不安定感が残存したため，当院受診した。前十字靭帯損傷の診断で靭帯再建術を計画したが，脳梗塞の既往があり，抗血小板剤を3剤内服中であった。術前検査では明らかな凝固系異常は認めなかった。術前2週よりヘパリン投与を開始し，ヘパリン3万単位/日まで増量したが，APTTの延長を認めなかった。ヘパリン抵抗性が疑われ，再度ヘパリン3万単位/日から数日間投与することでAPTT延長を認めた。手術6時間前にヘパリン投与中止し，半腱様筋腱を用いた鏡視下前十字靭帯再建術を施行した。術中はタニケットを使用せず手術施行し，術後翌日より抗血小板剤を再開した。Dダイマーと下肢エコーで血栓の有無について評価し，術後経過では明らかな血栓は認めなかった。

ヘパリンの感受性は個人差が大きく，通常の投与量で十分な抗凝固作用を認めない症例を経験したのでその周術期管理について考察する。

11. 副甲状腺機能亢進症に誘発された腰椎圧迫骨折の1例

武智 瑠美，鈴木 秀喜，有田 覚
(群馬県立心臓血管センター)

骨粗鬆症の非侵襲的な評価として，骨折危険因子(FRAX)，骨密度，骨代謝マーカー，脆弱性骨折の存在の評価がある。骨代謝マーカーの高値は骨吸収亢進状態を意味し，骨密度と独立した骨折危険因子と考えられてい